

2021年 トップに聞く

前田道路

今泉 保彦社長



20年を振り返って
4月のスタートは、コロナ禍で民間の営業が難しかった。受注は少し厳しいところがあるが、これから期末にかけて目標は何とか達成できる見通しだ。それよりも、昨年

の梅雨の長雨、梅雨明け後の猛暑の影響が大きかった。21年の見通し
当社は比率でいうと民間の方が多し。それも民間の小口の仕事が多い。営業所が全国に120か所、工場も100か所と、地域密着で日常の営業がきちんとして整備されている強みがある。もちろん、国土交通省や高速道路会

狙いを定め、バランスのとれた安定的な受注を指したい。
新中期経営計画
来期から新しい3か年中期経営計画がスタートする。大きな柱の一つはコンプライアンスの徹底などの体質改善。2つ目は生産性改革。3つ目は新たな収益基盤の確立。この3つの柱に向けて、単年度に何をやって

いくことになる。また、また、地方の財政も踏まえ、2030年に創立100周年を迎える。2030年に向けてどういう形に進めていくのか、中期経営計画でしっかり重

点施策を立て、実行していく。
市場環境
今後、新設は伸びる状況ではない。それよりも、維持・修繕の需要は今後も続いていくだろう。ま

的に取り組んでいく必要がある。市場の変化や社会の変化がおきても、きちんと収益を確保できるような、第3の基盤をつくっていく。前田建設がコンセッションなど、い

新たな収益基盤づくりを

るんな形で先行している。当然そこに学ぶものがある。リソースはフルに使っていききたい。
DXについて
工事にしても製造にしても、多くの人手がかかる中で、デジタル技術を使って、いろんな検査、管理を一元化していくという取り組みは必要となるだろう。品質確保や生産性向上のためにも、デジタル化は当然、真剣に向き合っていかなければいけないと思うている。